



特集 人生の締めくくりを準備していますか パソコン・スマホの整理をしておこう

スマートシニアのIT 終活

元気シニアの多くが、ネットワークを活用して積極的な消費行動をとり、活動範囲をひろげています。しかしいつまでも元気でネット活動が出来る保証はありません。パソコンに精通して家族のお金の管理から、ネット通販などで日常の買い物などをしてきた知人が、突然亡くなってしまいました。ご主人にすべてを任せて頼り切っていた奥さんはパソコンに触ったこともなく遠くにいる子供たちに来てもらって、パソコンを開いてもらおうとしましたが、パスワードが分からず開くことが出来ません。そこでパソコン仲間に連絡を取って来てもらい、奥さんの立ち合いのもと、友人は彼のPCを立ち上げ、銀行取引を停止しネット通販の商品予約なども取り消しました。この作業に友人は2日間も費やしたそうです。



見られたくないデータの処理は？

男性なら多くの方が収集している秘密の画像や、仕事の資料データなどについては慎重に対応する必要があります。奥さんに内緒だったという「株取引」なども停止させなくてはならず後始末は大変です。銀行口座などは、たとえ奥さんでも現金を引き出すには制約を伴います。

正式に死亡が判断されても、法定相続人の全員の合意が必要であり、様々な手続きをしないと引き出せません。自分の死後については、秘密の画像の消去や知人への連絡などが気になりますが、その他にも個別対応すべきものがたくさんあります。こうした作業は、ITに詳しい人がやっても故人の全容を把握するだけで1週間以上はかかってしまうでしょう。できれば自動的に対応できる準備が必要になってきます。

パソコンの中のエンディングノート

定年を過ぎたらエンディングノートを書いておくべきと言われていますが、パソコンの中にタイトルは別にしても、覚書の様なものは準備

して家族にその存在は伝えておくべきでしょう。

どんなソフトがあるのか

デジタル絡みの死後トラブルは、内容が正反対の2タイプに分類されます。すなわち「データが残っていたために起きるトラブル」と「データが伝わらなかったために起きるトラブル(ネット口座情報消失など)」です。

前者には「消す」対策、後者には「残す」対策が必要というわけです。終活への関心の高まりを受けて、様々なツールが出ていますが、中には「消す」と「残す」がセットになったものもあります。

「フリーソフトの『僕が死んだら』は、[僕が死んだら]という思わせぶりな名前のファイルを遺族がクリックすると、あらかじめ指定されていたデータが消去される仕組み。同時に、暗号化されていた遺族へのメッセージが開くので、遺族にとっては“残す”ためのツールとなるようです」(ITライターの資料より)。

急死してしまった時でも、秘密のフォルダを削除でき、さらに家族にメッセージを残せるフリーソフト「終活ソフト」があります。自分が死んでしまった後に、ログインパスワードをログイン画面上に開示できるようにするソフトです。どんな内容か確認することを勧めます。

スマホ対応ツール

スマホに対応したツールはまだ少ないのが現状です。確実に機能しそうなものは、グーグルが昨年からは提供を開始した『アカウント無効化管理ツール』くらいだと言われておりますので確認してみましょう。

パソコン・スマホなどの締めくくりも大切な終活活動です。(S)

